

教育奨励賞



原田 馨太

略 歴

1999年 3月 岡山大学医学部医学科卒業
1999年 4月 岡山大学第一内科入局
2000年10月 津山中央病院 内科
2002年10月 岡山大学医学部附属病院 消化器・肝臓・感染症内科
2008年 1月 福山市民病院 内科
2008年 6月 岡山大学大学院医学研究科 博士課程修了
2012年 1月 岡山大学病院 光学医療診療部 助教
2017年 6月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器・肝臓
内科学 教育医長（兼任）
2018年 1月 岡山大学病院 消化器内科 助教

業績要旨

卒前教育の臨床実習において、内視鏡や超音波などの医療機器に積極的に触れさせて、また実際に操作をさせ、限られた期間にできるだけ多くの、消化器内科医としての職業体験をさせるプログラム作りを行っている。また、岡山大学が医学教育にいち早く導入し、利用を促進しているシミュレーション実習を、自身が指導者として5年以上の間継続的に活用し、学部学生をはじめ、幅広い受講者に提供している。さらに、毎月開催される臨床系教育医長・教育企画委員会に欠かさず出席し、臨床教育の改善・改革に前向きな発言・提案をすることで、岡山大学医学部の学生教育に大きく貢献した。以上のような点が総合的に評価された。

2017年に消化器・肝臓内科学の教育医長に就任して以降は、実習班ごとに毎回オーダーメイドの実習予定表を作成し、実習生を少人数ずつ分散させることで、すべての学生にシミュレーションで学んだことをすぐに実地に反映できる環境を整えた。さらにこの環境の実現のために、消化器・肝臓内科学の医局員全員がもれなく指導者として学生に関わる体制作りを行った。内視鏡や、肝臓治療の介助は、実際の診療でその多くを、指導医の細かい指導の下でStudent doctor (SD) が担っており、この教育方法は学生からも高い評価を得ている。実習終了後のレポートにはすべて目を通し、一人ひとりに返信して、フィードバックを行っている。

学部学生に対する内視鏡シミュレーション実習は、選択制臨床実習が行われる7ヶ月間は毎週、基本臨床実習のみの5ヶ月間は2週間に一度ずつ、欠かすことなく継続してきた。授業の一環とはいえ、消化器内科医として日々の診療にも従事しながら、このような指導を何年にもわたり、途切れることなく続けてこられたのは、熱意と努力のなせる業と言える。この内視鏡シミュレーション実習の取組は、岡山大学×SDGsの取組事例にも取り上げられている。